

ライフサポート：はた

幹事会での「学習会」のご報告 (皆さんの、ご参加をお待ちしています！)

N055 : 2019. 6.1 時間 7

四万十市中村大橋通 7 丁目 1-24
連合高知西地協内 TEL:34-9191
発行責任者：事務局 伊達幸雄

色々な組織やクラブに参加している方も多いと思いますが、何か面白い話や、イベントの広報などがあればお知らせ下さい。皆さんからの、投稿をお待ちしています。

< 3月6日 (水) 10:00~11:00 >

場所：連合高知西地域協議会

講演：「老後を生きる」

講師：山本 衛 さん



いま老後を生きているが、自分が描いていた老後とはかなり違っている。

「体の節々は痛いし、歯もガタガタになった。」しかし「痛い歯は一本もない。(入れ歯のため。)」など、ご自身の現状を含めながら、笑いを交えてのお話でした。



「悪口や愚痴を言うと、脳の退化も起こってくるようなので気を付けましょう。」や「戦争で大儲けをしたあの政治家の先祖等のおかげで、学校へも行けずイモばかり作らされた。」など、戦時中の苦労も冗談を交えて話して頂きましたが、かなり下ネタも含まれており、皆さん大笑いしていました。(詳細はチョッと書きにくい。(笑))

< 4月3日 (水) 10:00~11:00 >

場所：連合高知西地域協議会

講演：「救急法」

講師：幡多中央消防組合

四万十消防署 (秋田さん、中平さん)



今回は、心臓マッサージ・人工呼吸の方法と、AED (自動体外式除細動器) の使用方法について、人体模型を使って実演を交えながら講習して頂きました。

まず、「救助の必要な人を見つけても、二次災害を防ぐため、すぐに救助に取り掛かるのではなく周りの状況を確認してから、本人の状況確認などの行動を起こす必要がある。」から始まり以下のような内容でした。

- 1、大きな出血がある場合は、最初にタオルなどで止血する必要がある。
- 2、声を掛け、体をゆする等、意識の確認を行なう。無ければ周りに助けを求めながら、**119番通報 (真っ先に行く)** やAEDの準備など協力者にしっかり指示を行う。



- 3、10秒前後感覚で呼吸の有無について確認を行なう。(胸・お腹の確認：普段どおりかどうか)
- 4、呼びかけに反応がなく呼吸がなければ、直ちに心臓マッサージ(胸骨を手の付け根で押す：30回の心臓マッサージ⇒2回の人工呼吸)を行う。

中学生以上は大人と同じでよいが、乳幼児は別途対応する必要がある。

- 5、人工呼吸は気道の確保が大変重要である。鼻をつまんで空気の抜け道を塞ぎ吹き込み、胸・お腹が少し膨らむ程度でよい。

感染が疑われる場合は心臓マッサージのみ行う。

- 6、AEDが来た場合は、心臓マッサージ等を周りの人をお願いして準備する。

使用方法は、電源を入れると音声で指示が出るので、それに従い操作を行う。



以上のような説明を受けた上で、人体模型を使って実際にそれぞれの作業を体験させていただきました。命に対する意識が高いためか、大変食いつきの良い研修となりました。

~~~~~  
 < 5月8日(水) 10:00~11:00 >

場所：連合高知西地域協議会

講演：「日本の今」

講師：全労済高知県推進 本部長 山崎秀一さん



いま世の中では、貧困問題について色々言われているが、日本の富裕層と呼ばれる上位40位の資産については、この四年間で7.2兆円から15.4兆円増加している。その一方で、相対的貧困と言われる方が14.9%も存在する状況にある。これは、OECD(経済協力開発機構：加盟35カ国)の中で、後ろから4番目という恥ずべき状況である。⇒格差が拡大している。

こうした中、ヘイトスピーチの拡大やブログでの戦争肯定論など、若者の右傾化が目立つようになってきているのではないかと。

このような状況の背景には、沖縄政策に見られる強権政治などともにアベノミクスと呼ばれる経済政策⇒大企業、富裕層のみが潤う政策がある。

安倍政権の支持率は、沖縄が最下位で24%その次が高知県で26%となっている中、若者の支持が多いとされているが、決して自民党を支持している訳ではない。

この他、毎年沖縄に3~5回行っているとのことで、沖縄問題と福島の問題について現状報告をして頂きました。

\*沖縄を見るときキーワードは、国土の0.6%しかない沖縄に70%基地が存在していることである。沖縄にとって、これはイデオロギー問題ではなく、基地の存在によって毎年起きる事故・事件等への生活・生存権に繋がる問題となっている。

福島原発事故については、被災者への東電の対応や、安倍首相の「アンダーコントロール」発言など、大した問題ではなかったことにしたいのではと思われる。

以上、それぞれの項目についての詳細なデータに基づいて、今の日本の問題点について講演して頂きました。

< 6月1日(土) 15:00~15:40 >

場所：四万十市立中央公民館

講演：「労働者福祉運動について」

講師：高知県労働者福祉協議会

事務局長 井上寿夫さん



今回の学習会は、6月1日に行われた「幡多地区労福協・幡多ライフ総会」の前段の講演として行われました。

まず福祉という言葉の概念について、辞典等にも「すべての市民に最低限の幸福と社会的援助を提供するという理念を指す。」と掲載されているとおり、福祉六法で言うところの「特定の困った人々を救済すること。」ではない。そして、市民の80%は労働者であるため、福祉運動大部分が勤労者への福祉活動となっている。

労働者福祉中央協議会（中央労福協）は、1949年に「福祉はひとつ」の理念のもと、36の労働団体や生活協同組合などによって勤労者福祉活動のための中央組織として、縦型の関係ではなく、ゆるやかな協議体組織として結成された。主な活動としては「全国労働者共済生活協同組合（全労済）」や「労働者のための銀行（ろうきん）」の設立があり、社会的連携の取り組みとしては、「高金利の引き下げ」「悪徳商法の根絶」「生活保護基準の切り下げ阻止・最低賃金の底上げ」「奨学金制度の改善」「SDGs（持続可能な開発目標）」「JCA（協同組合の連携組織）」などに取り組んでいる。

高知県労福協も、中央労福協の社会的連携運動への取り組みに関わると共に、独自の取り組みとして以下のような活動を行っている。

○ライフサポート事業（2018年度）

- ・なんでも相談：374件
- ・確定申告相談：188件

○研修会活動（2018年度）

- ・高知県労福協研修会：2回
- ・高知生のための金融教育セミナー：144校
- ・労働セミナー：2回
- ・労働者福祉カレッジ：2回

○広報活動（2018年度）

- ・機関紙「むすび」：4回
- ・働く人のためのハンドブック：3520部

○ボランティア事業（2018年度）

- ・ワクチンエイドキャップ運動：291,411個

○勤労者の森事業

- ・セラピーウォーキングなど：高知＝香美市里山整備体験  
：幡多＝セラピーウォーキング

○フードバンク活動

○音楽レクレーション指導士の育成

この他、認知症の予防や改善に効果的と言われている「音楽レクレーション指導」についての講演も予定されていましたが、時間の都合でやむを得ず割愛されました。

# 「幡多地区労福協」・「幡多ライフ」 の合同総会が開催されました。

＜ 6 月 1 日（土） 15：45～15:40＞

場所：四万十市立中央公民館

2019年度も昨年と同じく、前記講演会のあと合同で総会を行いました。

今年も議長を県職連合幡多支部書記長の横山さんにお願ひし、まず幡多地区労福協の総会を行い、その後幡多ライフ総会を行いました。

今年には写真にもあるとおり、来賓として広田衆議院議員・武内衆議院議員など現職国会議員の出席もあり、下記来賓の皆様からそれぞれご挨拶を頂きました。



- ・衆議院議員 広田 一 様
- ・衆議院議員 武内 則男 様
- ・高知県議会議員 橋本 敏男 様
- ・高知県議会議員 石井 孝 様
- ・宿毛市議会議員 松浦 英夫 様
- ・全労済高知推進本部 山崎 秀一 様

議事の時間については、幡多地区労福協・幡多ライフで1時間20分程度しかありませんでしたが、それぞれの議案について2018年度の経過報告・2019年度方針・役員改選等が提起され、全て満場一致で承認されました。



毎年お世話になっている横山議長のスムーズな議事進行に、心より感謝申し上げます。

## 譲りたいもの・欲しい物コーナー

あなたやお知り合いの方で、捨てるのはもったいない物、逆に誰か譲ってくれる方はいないかな～という時はご一報下さい。(有償・無償、匿名＝自由)  
※〈事務局で物品の保管は出来ませんのでご了承ください〉



連絡先：連合高知西地域協議会 事務局  
TEL 0880-34-9191 FAX 0880-34-9192  
E-mail : [nishi-chikyo@kochi.jtuc-rengo.jp](mailto:nishi-chikyo@kochi.jtuc-rengo.jp)

(希望物品情報)

| 品 名 | 有償・無償 | 物品の状況  | 希望者 |
|-----|-------|--------|-----|
| 冷蔵庫 | 無償    | 使用可能な物 | 匿名  |